日経再発見！

Vol.12

発行：日本経済新聞社大阪本社
販売局マーケット開発部

株高は持続するのか？
ヒントは日経の中にあります。

株高は続くのか？
景気はどうなるのか？
これからを予想するのは難しい。

日本経済新聞には経済や企業情報、
専門記者による解説記事が満載です。

社会や経済の動きが複雑になり、わかりにくくなっています。
しかし、ニュース記事や解説記事を読み続けていると、
その変化のツボが見えてきます。
あなたの暮らしに、ビジネスに、そして投資に、
日本経済新聞をご活用ください。

企業の構造改革 原動力

日経平均15年ぶり高値

攻めの経営にカジ

欧米株の水準には遠く

株式市場が企業の収益成長を織り込み始めた。日経平均株価は19日、ほぼ15年ぶりの高値に上昇した。長期のデフレと超円高、金融危機に翻弄された日本企業は地道な構造改革で「稼ぐ力」を取り戻した。豊富な手元資金を成長投資や資本、配当などに使い始め、景気底上げの起点になりつつある。ただ、欧米市場との差はなお大きい。株高の持続には実質収益などの企業の底力を高める取り組みが不可欠だ。（関連記事2、3面に）

19日の東京株式市場で日経平均の終値は前日比165円（0・4%）高の1万8264円だった。2007年7月の高値1万8261円を超え、IT（情報技術）バブル期の00年5月以来、ほぼ15年ぶりの高値をつけた。

株価上昇の原動力は構造改革による企業の収益力向上だ。2月中旬にかけて発表された企業の14年4～12月期決算は総じて堅調な内容で、日本企業の成長力に期待した投資家は、東京市場に資金を振り向けた。15年3月期に上場企業全体で1年ぶりに過去最高益を更新する見通しだ。

19日、トヨタ自動車の株価が8年ぶりに8000円の大台を回復した。トヨタは2月上旬、最高益を見込んでいた通期の利益予想を、さらに引き上げている。安倍晋三首相が主導するアベノミクスと日銀の異次元緩和が呼び込んだ円安が、世界で稼ぐトヨタの業績を押し上げた。だが、それだけではない。

トヨタは08年のリーマン危機後、世界的な需要消失に直面し赤字に転落した。超円高で輸出採算が悪化し、東日本大震災ではサプライチェーン（供給網）が大混乱を来した。相次ぐ危機を乗り越えてきた不断の経営革新が最高益の源泉だ。

その間、米国ではアップルやグーグルが革新的な製品やサービスを世界に送り出した。守りの経営に terminated the Japanese business model of innovation (technological innovation) that had been the driving force behind the growth of the Japanese economy. Currently, Japanese companies are holding on to their cash reserves rather than using them for capital investment. Japanese companies have been criticized for their inability to generate profits from their cash reserves. However, this is changing as companies are now using their cash reserves for capital investment. This is a positive development for the Japanese economy.

1990年代の金融危機を経験し、大手銀行は得だった日本企業はイノベーション（技術革新）で後れをとった。世界で通用する競争力を獲得できた日本の企業は一握りにすぎない。

日経平均は15年ぶりの水準に回復したとはいえ、89年のバブル期につけた最高値の半分以下にいるに過ぎない。資本効率（ROE）を経営の最重要な指標として掲げる。15年3月期に上場企業全体で1年ぶりに過去最高益を更新する見通しだ。

収益の改善に自信を深めた企業は、海外企業のM&A（買収など次なる成長に向けた投資に動き始めた。ファナックのように国内で設備投資を増やす企業も増えている。自動車や電機などの大企業は積極的に動く。株主への資金還元と投資マネーを呼び込む要素がそろいつつある。

ただ、企業は成長にかじを切り始めたばかりだ。98年からのデフレ局面では成長戦略より、賃金を含めたコスト削減を優先してきた。守りの経営が悪化し、東日本大震災ではサプライチェーン（供給網）が大混乱を来した。相次ぐ危機を乗り越えてきた不断の経営革新が最高益の源泉だ。

その間、米国ではアップルやグーグルが革新的な製品やサービスを世界に送り出した。守りの経営に terminated the Japanese business model of innovation (technological innovation) that had been the driving force behind the growth of the Japanese economy. Currently, Japanese companies are holding on to their cash reserves rather than using them for capital investment. This is a positive development for the Japanese economy.

（編集委員 三反園哲治）

2015年2月20日（金） 日本経済新聞朝刊1面

日経の読み方 紙上講座

最終回

新聞を読みこなそう!

前回の講座では「新聞は見出しを読むもの」とお伝えしました。
最終回の今回は、これまでの講座の「見出し」を使って、日経の読み方を復習してみましょう。

新聞の構造を知る

新聞を読みこなすためには、ニュース記事や新聞そのものの構造を知ることが重要です。「新聞は逆三角形（第１回）」だから、ニュース記事は最初に結論が書いてあります。そのため、すべて読まなくてもニュースが理解できるようになっています。「新聞は『見出し』を読む（第５回）」だけでも大丈夫。さらに「『面建て』は読みやすさの秘訣（第７回）」であり、新聞記事はジャンルごとに整理されています。あなたにとって必要なニュースを見つけてください。日本経済新聞の特長は「経済」にあります。「スポットライトでニュースが変わる（第３回）」ので、新聞社ごとに重要と考える記事が異なります。他の新聞と読み比べてみれば、その違いがわかるでしょう。

経済ニュースの特性を知る

ニュース記事には「事実」とそれが起こった「背景」と、そしてこれから何が起こりそうかという「今後」が書かれています。「ニュースは連続ドラマ（第２回）」のようにつながっていきます。そしてそのドラマには「経済ドラマの『タテ』と『ヨコ』（第４回）」の両方の展開があります。あなたのビジネスや投資のために必要な「未来」を見つけましょう。「『一覧性』は新聞の専売特許！（第６回）」です。それをいかして思わぬニュースとのセレンディピティな出会いをしてください。そして、「セレンディピティでビジネスに勝つ！（第８回）」ことを目指しましょう。でも、忘れてはいけないのは新聞を読むことが目的ではありません。新聞で得た情報をいかにあなたの行動にいかすかが重要なのです。まずは、「気になるニュースをあの人に伝えよう（第９回）」から始めてみましょう。さらに、「『スクラップ』のすすめ（第10回）」も実践してみてはいかがでしょうか？

「忙しいあなたのための新聞の読み方（第11回）」を見つけて、ぜひ、日本経済新聞を読みこなしてください。

「日経再発見！」は今回でいったん終了とさせていただきます。「日経の読み方 紙上講座」を参考に、今後とも日本経済新聞をご愛読ください。

「日経再発見！」はお客様に新聞をお届けしている新聞販売店がお届けしています。